

リー会員 沢研勉強会

文責 若林

沢研で使う用語

・地形

- () …本流に流れ込む沢や支流の中に流れ込む小さな沢。
- () …開けた川岸で砂や石の多い場所。
- () …大きな岩がゴロゴロした場所。
- () …沢と沢の合流地点。同じくらいの水量の沢が出合う地点を二俣という場合もある。
右岸と左岸…下流から見て右を()岸。左を()岸という。壁の場合は下流から見て右が()壁。左を()壁という。
- () …水が深く流れが遅い場所。円形になっているものは()。反対に浅くて流れが速い場所を()という。
- () …なめらかな一枚岩や凹凸の小さい岩場の斜面のこと。
- () …スラブの上を水が流れている場所。表面は水流で磨かれツルツル。傾斜がきつくなるとナメ滝と呼ばれる。滑りやすい。
- () …岩壁などに雨などにより刻まれた急峻な溝。落石の巣。ちなみに人一人がやっと通れる岩の割れ目をチムニー、手が入るくらいの割れ目はクラック。
- () …土砂流失防止などのための人工の堰。
- () …兩岸に垂直に近い岩壁が迫ったせまい場所。水量が多く通過が困難な場合もある。
- () …急峻な岩の間に挟まった岩石。ここから落ちる滝を CS 滝と表記することもある。
- () …沢の側面や源頭部に多い丈の短い草地の斜面。滑りやすくホールド（手をかける場所）や足場が少ない。
- () …沢の最源流部。ツメともいい、ガレ場や草付になっている場合が多い。落石に注意。

オーバーハング…岩壁が前傾した部分

スノーブリッジ…沢の上にかかった雪の橋。崩壊の危険がある。

・技術・動作・その他

() …目的の沢へ入ること。

() …淵や釜、ゴルジュで水際をトラバースすること。

() …直登できない滝などを迂回して登ること。ザイル（ロープ）を使うときもある。

ビレイ…登攀者が滑落した際に下まで落ちないようにロープで確保すること。

懸垂下降…ザイルを使って斜面や崖を下降する技術。

徒渉 …水流を横切って渡ること。通常流れが緩やかな場所を渡る。

人工登攀…あぶみ（携帯はしご）など人工の足場を積極的に使う登攀スタイル。

F …Fall の略。沢の出会いから、主要な滝に F1、F2 など番号をつける。

ギア（装備）

スリング…ロープやテープで作った輪状のもの。支点の作成やセルフビレイなど様々な場面で使用。ショートとロングの 2 種類を持つていく。



カラビナ…絶対に外れないようにしたい時は環付きのものを使う。



確保機 …ビレイに使用。今の沢研では下降器としても使えるルベルソや ATC ガイドを使っている。

ハーネス…安全ベルト。ロープはハーネスにつなぐ。

ハーケン…ハンマーとセットで携行。岩の割れ目に打ち込み支点を作る。岩に直接埋め込むのはボルト。



カム…レバーを引くと動く 4 枚の金属がついた器具。クラックと呼ばれる岩の割れ目にレバーを引ながら差し込み、放すと先が広がり固定される。



ナッツ…先に金属片が一つ付いた器具。割れ目にひっかけて使う。



あぶみ…人工登攀で使う小型の縄梯子。

溪流シューズ…沢で使用する靴。靴底はフェルト生地やゴムなどが使用される。登山道を歩くのには不向き。

沢スパッツ…沢で使うスパッツ。靴の中にゴミが入らないようにするためや、怪我から足を守るほか、保温にも効果あり。

ヘルメット…落石対策。水抜き用に穴があいている。

ザイル…ロープのこと。主に 9 ミリロープを使用。